

平成30年度当初予算（案）の概要

金額は現時点の概算であり、今後変動する可能性があります。

	頁
1 予算編成に当たっての考え方	1
2 主な重点施策の概要	2
3 予算の規模等	16

平成30年度当初予算（案）の概要

1 予算編成に当たっての考え方

現下の課題にしっかりと対応しつつ、「未来を展望し挑戦する予算」を編成

- ・ 今年、明治維新150年、市役所開庁（自治権獲得）120周年、更に、京都が都市の理念として掲げた「世界文化自由都市宣言」40周年
- ・ 150年前、千年を超えて続いた都の地位を事実上失う都市存亡の危機の中で、先人達は、「京都をこのまま衰退させてはならない」と立ち上がり、全国初の番組小学校創設、全国初の芸術大学、工業高校の創設により、人づくり、文化芸術を基軸としたものづくりに尽力。更に琵琶湖疏水や日本初の水力発電所、市電開業など、今に至る京都の礎となる先進的な取組に次々と挑戦
- ・ 40年前、市会の議決を得て世界文化自由都市を宣言して以来、宣言をあらゆる政策の最上位の都市理念とし、「優れた文化を創造し続ける永久に新しい文化都市」実現に向け、文化を基軸とした都市経営を推進
- ・ 世界規模で格差の拡大、紛争の多発、環境破壊が進行する今こそ、先人達の志と偉業に学び、文化を基軸に人づくり、観光、福祉、まちづくりなど、あらゆる政策分野を融合し、京都の持つ潜在力を最大限に引き出す絶好の機会
- ・ この好機を捉え、厳しい財政状況の中でも決して守りに入ることなく、京都の未来のための先行投資を積極的に推進
- ・ 徹底した行財政改革により財源を捻出し、市民生活の安心安全、全国トップレベルの福祉、教育、子育て支援にしっかりと予算を確保すると同時に、「文化力」をはじめとする京都の強みを最大限に活かした成長戦略、宿泊税を財源とした「住んでよし訪れてよし」のまちづくりなど、京都の今と未来に真に必要な施策を展開
- ・ これらにより、京プラン実施計画第2ステージに掲げる307施策全てを着実に前進させ「未来を展望し挑戦する予算」を編成

2 主な重点施策の概要

- ・縦割りを排し、あらゆる政策分野における融合・連携を徹底しながら、重点課題にしっかりと対応
- ・とりわけ、宿泊税を財源として、京都市民、観光客、観光関係事業者すべてのひとの満足度を高める「住んでよし訪れてよし」のまちづくりを加速

● 日本の“こころの創生”を牽引する「世界の文化首都・京都」の実現

… 3 ページ

● 京都の強みを最大限に活かした地域経済の更なる活性化

… 7 ページ

● 市民のいのちと暮らしを守り、子育て・教育環境を一層充実

… 10 ページ

● 参加と協働による地域の個性と活力あふれるまちづくり

… 13 ページ

宿泊税を財源として充実・強化する取組

… 14 ページ

文化によるまちづくり・地域活性化

6 充実 京町家の保全及び継承に関する取組の充実・強化

3 億 2,500 万円【宿泊税充当事業】

29年11月に制定した「京都市京町家の保全及び継承に関する条例」に基づき、京都ならではの個性豊かで洗練された景観・文化の象徴である京町家を将来の世代に継承していくための取組を充実・強化

- | | |
|--|--------------|
| ○京町家所有者の保全・継承に係る助成制度の創設・拡充 | 2 億 3,800 万円 |
| 趣のある町並みや生活文化の保全・継承の観点から特に重要であるため重要京町家及び京町家保全重点取組地区に存する京町家（取壊しの事前届出義務の対象）の改修工事に係る助成制度や、重要京町家の維持修繕に係る助成制度を創設するとともに、耐震改修工事に係る助成制度等を充実 | |
| ○京町家の流通・活用機会の確保 | 3,300 万円 |
| 本市が借り上げ、民間事業者を通じて賃貸を行うモデル事業のほか、民間資金による京町家再生ファンドの構築に向けた調査・検討等を実施 | |
| ○京町家の価値の共有 | 3,600 万円 |
| 重要京町家を称えるプレート等の交付や、事業者・専門家及び学校教育向けの京町家に関する教育研修プログラムを新たに作成するほか、京都とパリの大学を中心に、京町家などの歴史的建造物の保全・活用を含む都市デザインに関するワークショップ等を実施 | |
| ○京町家の保全・継承の取組の効果を高める施策 | 1,800 万円 |
| 建築基準法の適用除外に係る包括同意基準の拡充や、新築京町家の基準の検討等 | |

7 充実 “京都を彩る建物や庭園” 助成制度の充実

2,000 万円【宿泊税充当事業】

“京都を彩る建物や庭園”制度により、認定や選定を行った未指定文化財等について、助成制度を充実し、活用・公開を促進